



観察風景

奥尻島宮津のウミネコ

吉見 久



吉見 久(よしみ ひさし)

1932年北海道松山支庁大成町に生る。現在、奥尻町宮津小学校教諭。「他人の気持を考える人」「何ごとにも努力する人」の2つを教育者として日常実践している。趣味は旅行。

夢の島と呼ばれる周囲八十四キロメートルの奥尻島、基幹産業であった漁業も昔の面影はなくなり、現在では道内有数の観光地として生まれ変わり夏場には多くの観光客で賑い活気を見せている。この奥尻の中心街より北に六キロメートルほど離れたところに漁師たちが海の守護神「弁天様」をまつり、大漁を祈願した宮津弁天宮と、対岸のユーラップ岳やイカ漁のいさり火というように自然の景観に恵まれた小高い丘に全校二十三人の小さな宮津小学校が建っている。

四月上旬になると、ミヤオーミヤオーというけたたましい独特の鳴き声が聞こえてくる学校、そんなウミネコに目をつけ、地域の素材を生かした教育活動の実践として学校教育に取り入れたのが四年前のことである。観察を通して子ども達に物事を根気よく見つめる態度を養い、地域の自然や歴史を学ぶ意欲をもたせ、そこから思いやりのある人間、郷土や自然を愛する気もちを養うことなどを目標として実践している。

カモメがやってくる前、観察に行くたびに驚いて

逃げると困るので、かやを刈りそれを立てかけて観察小屋を作ることから始めた。枯れススキが立派な小屋に変身したことで子ども達は自然の素晴らしさと人間の知恵を体得しようである。

五月初めから観察を開始した。小屋のススキをかきわけて、そうつと望遠鏡をさし出した。岩場には、巣にしゃがみこんでいるもの、せつせと枯れ草を運んで巣づくりをしているもの、二羽で向きあって鳴いているもの、大空を飛びまわっているもの、その数は、数百羽のカモメが見られた。よく観察すると、口は黄色く、折りたたんだ羽の先に白い斑点があり、足は黄色で、目はまん丸く二重まぶたである。この観察記録をもとに、百科事典で調べてみたら、今までカモメとかゴメなどと言っていたのがまちがいでウミネコであることがわかった。ウミネコもカモメの仲間がよく似ているので、だれも気がつかずにいたのである。ウミネコの繁殖地として北海道の天売島はよく知られているが、他にはあまり聞いたことがない。それが、こんな近くにいるなんて島の人たちも知らなかったことで大発見である。子ども



ウミネコ

達は得意になり、小屋の近くの道路わきに『お静かに、シッシッシ。ただ今、ウミネコ観察中』と書いた看板をたてるというようにやる気がわいてきた。

子ども達は初めて巣の中に卵を発見した。それからは何時生まれるのだろうかと望遠鏡をのぞくのも真剣な毎日である。親鳥が卵を温めているとき朝と昼によつて違いのあることを発見したり、鳴き声にも違いのあることなど多くのことを発見した。

「先生ノ生まれた、生まれた。」

「ワアー、かわいいなあ。」

ふつくらとした産毛につつまれたひなを観察したときの子ども達の顔は本当にうれしそうであった。雨の日も風の日も一生懸命卵を温め続けている親鳥の姿を通して親の愛情の深さと生命の尊さを知ったようである。

今度は、親鳥のように空を飛びまわる日がくるのは何時だろうと観察しては、記録ノートに書き綴る子ども達の姿はすっかりウミネコに取りつかれてしまったようである。巣の中でかわいらしい顔をしているひなを見ては歓声、アオダイショウやカラスが巣に近づくのを見ては悲鳴を上げるというように物事に集中する態度が培われてきた。

親鳥が、ひなを育てるためえさをせっせと運んで食べさせている風景や、巣に近づいてくる敵があれば子どもを守ろうと攻撃する様子など望遠鏡から見られるウミネコの親とひなを子ども達の記録ノートには、『たいへんだね。』とか『なかがいいね。』などと書かれている。このことから親子の愛情や自然のきびしさなどを学んだと確信している。

こうして生まれたひな達は、一か月もすると親と同じくらいの大まきに成長し、羽ばたきの練習

を始めた。そんなウミネコを観察している子ども達は、『それっ、もうすこし。』とか『がんばれ！』などと声を出して応援している。大空へ飛び立つ瞬間などは、『ばんざあい。』『ばんざあい。』と一大合唱になった。ウミネコと子ども達が一緒になった本当に微笑ましい風景である。

朝から晩まで、ミヤオー、ミヤオーと鳴き続けたウミネコの声も聞こえなくなり、四月から七月まで毎日続けてきたウミネコと子ども達のドラマも終わった。子ども達は、ウミネコの観察発表会で、今度来るときまでに、もつと海をきれいにするんだ。住みやすいようにするんだ。そして、何時までも何時までもぼくらの海に来てほしい。来年もまた会えるのを楽しみにしていると感想を聞いたときは、観察の成果を確信することができた。

数百羽と群をなして飛来していたウミネコにも異変が起こった。朝の目覚し時計にしていた鳴き声がさっぱり聞こえなくなった。観察小屋へ行って見ると数十羽ほどより確認できない。いったいどうしたんだろう。あんなに楽しみに待っていた子ども達もがっかりしている。

原因はよく分からないが考えられることとして、今までだれも行かなかった海岸に大勢の釣り客が入ったり、巣の中にある卵を取って行くというような行為が見られた。このように、エメラルドグリーン海、断崖絶壁の続く美しい海岸と自然に恵まれた宮津でさえも、餌不足、環境の悪化が進んでいる。

全国各地で自然破壊や自然保護の様子を耳にすることがある。遠くのできごとと思っていたことが身近に起きていく。ウミネコの観察で体験したことを無駄にしないためにも、もつと自然を大切にし、動物を愛する重要さを学校教育に生かしたいと思う。